

CONFERENCE REPORT

第117回 日本精神神経学会学術総会

会期：2021年9月19日～21日（オンデマンド配信：2021年10月4日～11月30日）

木下 利彦 関西医科大学医学部精神神経科学講座教授

第117回日本精神神経学会学術総会を2021年9月19日から21日の3日間、国立京都国際会館で開催させていただきました。昨今の新型コロナウイルスの蔓延で当初の6月の予定から3ヵ月の延期をさせていただいての開催でした。フル企画オンサイト+オンデマンドでの形態となりました。関西医科大学主催としては、1988年前任の斎藤正己先生が大会長で大阪国際交流センターにて開催してから実に33年ぶりでありました。今回のテーマは、「革新と伝統が紡ぐ質の高い精神医学」とさせていただき、「最新の脳科学の知見」、「精神医学を築いた巨人達の足跡」、「精神医学と藝術」を3本の柱としてプログラムを構成しました。新型コロナウイルス感染がちょうど下火になったときでありましたので、1日平均1,000名の会員に会場へ足を運んでいただき、運営側としましては大変うれしく思いました。オンデマンド配信が11月末に終了し最終的に8,800名の会員にご参加いただきました。

コロナ禍による甚大な影響は、当然のことながら社会生活全体に未曾有の変化をもたらしております。人類の歴史を眺めてみますと、感染症の大流行後に社会が劇的に変化したり、逆に人間の移動によって感染症が流行したり相互に関係しあっているようです。14世紀のペストの大流行後のルネサンスの勃興、またルネサンス期の梅毒の流行、16世紀大航海時代における中南米の天然痘の大流行とその文明の滅亡、19世紀の産業革命と結核の流行、20世紀の世界大戦とスペイン風邪の大流行などが該当すると考えられています。今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、今まで経験したことのない速さであり、一瞬にして全世界に広がってしまいました。社会に及ぼす影響は戦争による被害に比しても甚大なものになっております。また、以前はあまり顧みられることのなかった精神医学に及ぼす影響も計り知れないものになっております。グローバルな世界



写真1. 日本精神神経学会学術総会の集合写真